

2014年8月12日

## 活発化する中国の国際経済戦略

公益財団法人 国際通貨研究所  
理事長 行天 豊雄

ここ数年、急速な国力の伸長と国際的地位の高まりと表裏をなして、中国の世界経済戦略が著しく活発になってきた。その積極性と戦略性は今迄と全く様変わりである。それは広汎多岐に亘っているが、目につくだけでも次のようなものがある。

### (1) 人民元の国際的利用の拡大

周辺国から始まって中国との貿易決済に元を使用する。そのため、人民元の相場や金利を徐々に自由化する。直接決済を拡大する。元建起債、元建投資を拡大・自由化する。

### (2) 人民元市場の整備

上海を人民元の国際金融センターに育てる。人民元のウォール・ストリート、人民元のシティである。そのため上海を金融特区とする。新設の BRIC s 銀行の本店も上海に設置する。同時に香港、シンガポール、ロンドン、パリ等誘致に積極的な所はユーロ元市場として発展に協力する。

### (3) 4兆ドルの外貨準備の戦略的な活用

これ以上積極的にふやすことはしないが、対外投融资・援助の原資として地政学的考慮をも含めて活用する。地理的にはアフリカと中南米が重点。対象品目はエネルギーと各種原材料、水等。さらに、外交手段として財政困難なユーロ圏国の国債購入。外準の通貨構成を変更することが相手国（とくに米国と日本）との通貨外交にどう働くか検証。

### (4) 国際金融機関への影響力の拡大

インフラ銀行、BRIC s 銀行、BRIC s 基金を設立し、アジア開銀、世界銀行、IMF の対抗馬として影響力を強める。

### (5) 国際通貨制度の改革

中国はかねがね現行の米ドル基軸通貨体制に不満と不安をつのらせていた。それはリー

マン・ショックによるドル信用収縮によって中国が大きな被害を受けたこと、また、北朝鮮やロシア、また一部欧州銀行に対するドル金融制裁の威力を見てドル依存のリスクを痛感したからである。したがって表向きには SDR のような国際通貨制度を提唱しているが、本心ではそれが可能とも望ましいとも思っていない。

当面の戦略的目標は米ドル依存を減らすことであり、とくにアジアで人民元を先ずはドルに次ぐ第二の通貨にし、いずれはアジアの域内基軸通貨にすることである。

中国は世界の基軸通貨国になることがメリットと同時に非常に大きな負担を生ずることを良く知っている。だから、人民元を米ドルに代わる世界の基軸通貨にしようとはさらさら望んではいない。負担はできるだけ米国に続けてもらい、自らは他通貨依存のリスクを減らして、人民元圏のメリットを享受するのが狙いであろう。

「世界の警察官」と「世界の基軸通貨」は中国の観点からすれば似たようなものなのかも知れない。それを上手に使いこなすことが「望ましい大国間関係」なのだろう。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2014 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>